

はじめてのクラシック

INTRODUCTION TO CLASSICAL MUSIC

イラスト:IKE/文:松井治伸

ロシア革命が起きたことで、ラフマニノフは祖国ロシアを離れ、アメリカに渡ります。新天地で彼は、生活のためにピアニストとして活動を始めました。名演奏家として人気と名声を博した一方で、彼は親しい友人に「私はもう何年もライ麦のささやきも白樺のざわめきも聞いていないのです」と、愛するロシアを離れた悲しみを吐露しています。《交響曲第3番》はそうした状況の中で書かれたものです。結局彼は、祖国へ帰ることなく69歳で亡くなりました。《第3番》の哀愁が漂うメロディには、遥かな祖国へ寄せる彼の望郷の念が込められているかのようです。

異国の地で紡がれた郷愁の音楽

# セルゲイ・ラフマニノフ

Sergei Rakhmaninov (1873-1943)

C  
2026 JUNE  
[第2068回]

大きな手でピアノを弾くラフマニノフ。  
30年ぶりに書かれた交響曲、  
《第3番》は、彼の最後の交響曲となった

©IKE